

高山正也・植松貞夫 監修
現代図書館情報学シリーズ…10

改訂
情報資源組織演習
解答例と解説

The title is centered on the page. Below the main title, there are several decorative red brushstroke elements: a large 'X' shape, a curved line, a hook-like shape, and a double-lined shape, all rendered in a light red color.

樹村房

改訂 情報資源組織演習
解答例と解説

も く じ

I 部 ■ 目録編

1 章	目録法	1
2 章	目録作成の実際：図書	2
3 章	目録作成の実際：図書以外の資料	9
4 章	目録作成の実際：書誌階層構造	12
5 章	書誌ユーティリティにおける目録作成	17

II 部 ■ 分類・件名編

6 章	主題組織法	23
7 章	分類作業の実際(1)	24
8 章	分類作業の実際(2)	25
9 章	件名作業の概要	28

III 部 ■ 応用編

10 章	ネットワーク情報資源のメタデータ	30
11 章	索引・抄録作成法	31

1章 目録法

1章「目録法」演習問題 (p10-11)

1. 「目録」は、図書館等のコレクション（蔵書）の記録であるのに対し、「書誌」は図書館等での所蔵の有無にかかわらず、特定の主題、著者、時代、地域などに関する資料のリストである。
2. ①（蔵書目録）、④（総合目録）、⑤（個人文庫目録）
 [解説] 所蔵の有無をタイトルから判断する。「文献目録」「書目」などは「書誌」のことが多い。
3. (1) 「標目」または「アクセス・ポイント」
 (2) 「書誌記述」または「記述」
 (3) 「所在記号」
 (4) 「識別機能」または「ファインディング・リスト機能」
 (5) 「集中機能」
- 4.

ISBDのエリア	エレメント	課題図書の書誌データ
タイトルと責任表示エリア	タイトル	ベルグソン書誌
	タイトル関連情報	日本における研究の展開
	責任表示	郡司良夫 編著
版エリア		なし
資料の特性エリア		なし
出版、頒布等エリア	出版地、頒布地等	金沢
	出版者名、頒布者名等	金沢文圃閣
	出版年、頒布年等	2007.1
形態的記述エリア	資料の数量	256p
	大きさ	22cm
シリーズ・エリア	シリーズのタイトル	文圃文献類聚
	シリーズ番号	10
注記エリア		なし
標準番号と入手条件エリア	標準番号	ISBN 978-4-907789-34-3
	入手条件	12,000円＋税

[解説] 大きさは通常資料の縦寸を取るが、小数点以下は切り上げる。

5章 書誌ユーティリティにおける目録作成

5章「1. 共同目録作業と NACSIS-CAT」演習問題 (p107-108)

1. 「集中目録作業」は、米国議会図書館や国立国会図書館のような各国の全国書誌作成機関等が、その国の出版物の目録レコードを作成し配布する方式で、「共同目録作業(分担目録作業)」は、OCLC や NII などの書誌ユーティリティに参加する図書館がコンピュータ・ネットワークを介して共同分担で目録レコードを作成する方式である。
2. 「目録システム」(または「目録所在情報システム」、NACSIS-CAT) は、オンライン共同分担目録方式によって「総合目録データベース」を形成するためのものであり、各大学図書館等における目録業務は、このシステムを直接利用しながら行う。目録システムを使って目録業務を行った結果形成された全国大学図書館等の蔵書データベースを「総合目録データベース」と呼ぶが、この成果物は同時に「目録システム」における作業用ツールともなる。
 [解説] 目録レコードを作るための「目録システム」とその成果物としての「総合目録データベース」という関係が基本であるが、形成された「総合目録データベース」が「目録システム」の中で書誌情報の共有を促し、大学図書館等における目録業務の負担軽減を図っているという側面もある。なお、「総合目録データベース」は、「NACSIS-CAT データベース」と呼ばれることもある。
3. ①「CiNii Books」(及び「Webcat Plus」)により、日本の大学図書館等における学術文献の目録所在情報を一般利用者に提供、②図書館間の相互貸借システム(NACSIS-ILL)の中で目録所在情報の検索機能を提供、③各参加図書館の蔵書データベース、OPAC等構築のための基本データ提供、など。
4. NACSIS-CATの特徴は、全国の参加図書館による「オンライン共同分担入力方式」を採用していること。また、全国の「総合目録データベース」を構築するためのシステムであると同時に、個々の参加図書館の蔵書目録データベース形成のためのシステムであること。その意義は、データ作成作業の重複を防ぎ、目録作成業務の負担軽減を図ることである。
 [解説] 他に、データの保持方式として、他の書誌ユーティリティにくらべて厳密な「一書誌一レコード」原則を貫いていることも特徴とすることができる。

5.

(1) ×

[解説] 以前は和洋に分割されていたが、1997年に両ファイルを統合。現在は和資料、